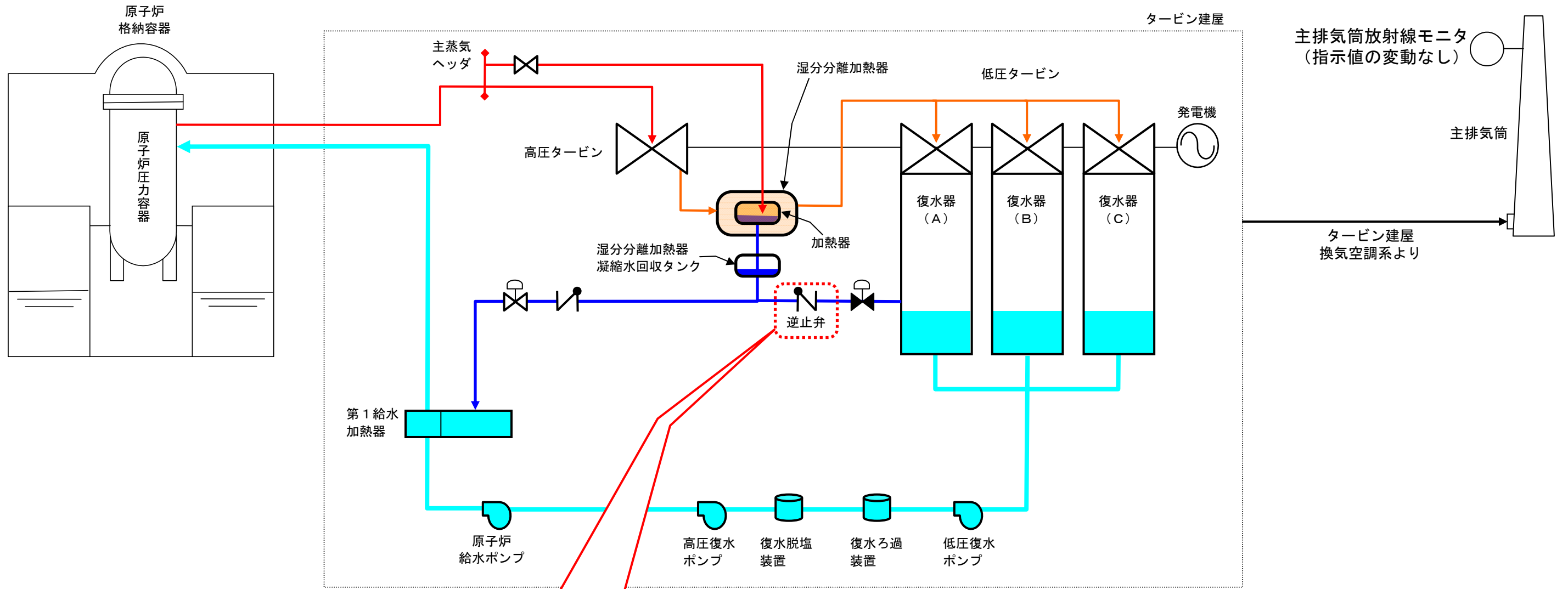
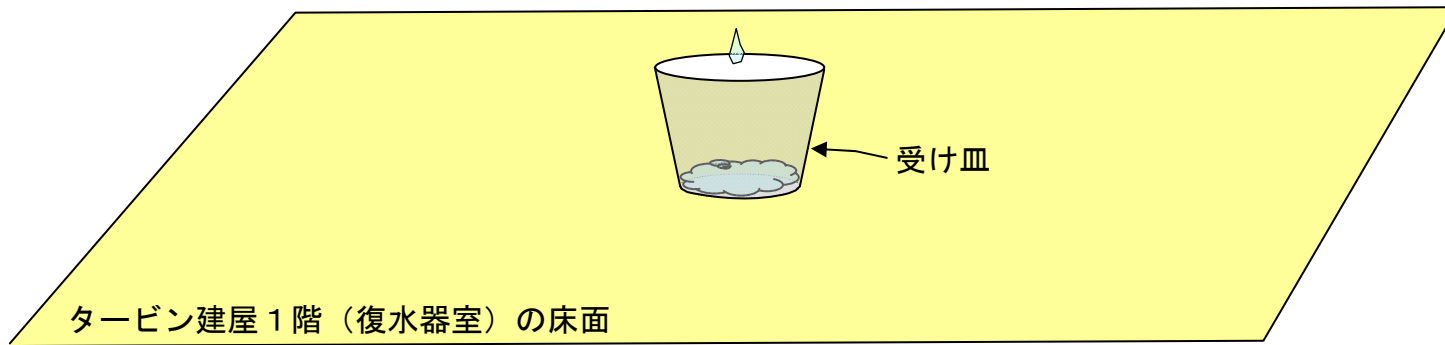
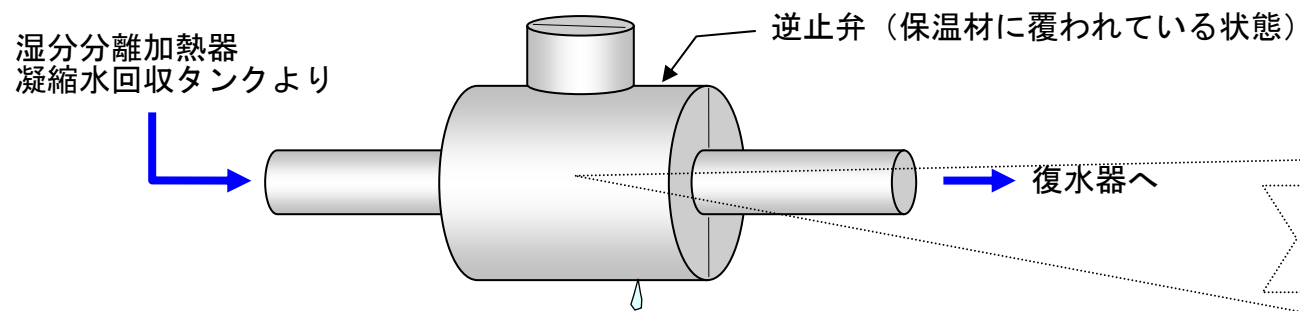


区分：Ⅲ（続報）

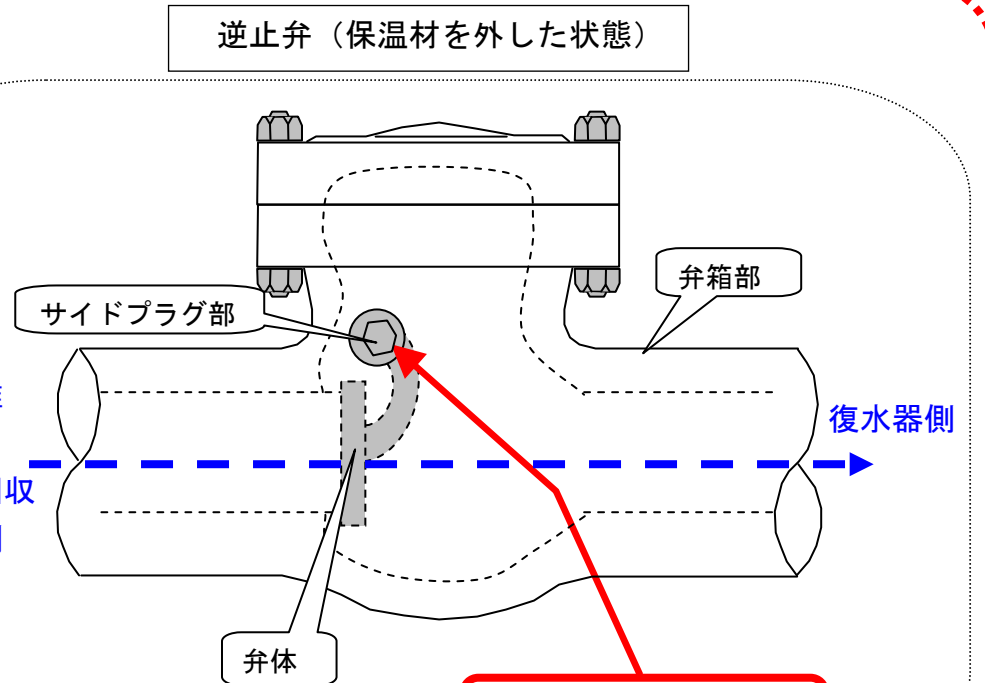
号機	7号機	
件名	復水器室（管理区域）における水漏れの対応状況について	
不適合の概要	<p><b>（事象の発生状況）</b> 定格熱出力一定運転中の7号機において、平成22年11月16日午後1時30分頃、パトロール中の当社社員が、タービン建屋1階の復水器室（管理区域）において、湿分分離加熱器*1凝縮水回収タンクの下流に設置されている逆止弁付近の配管保温材から水が床面に滴下していることを発見しました。 滴下した水は漏えいの拡大を防止するための堰内にとどまっており、堰内の床面に溜まっていた水の量は約4リットル、放射エネルギーは約<math>1 \times 10^6</math>ベクレル*2でした。 また、当該場所の空气中放射性物質濃度を測定した結果、粒子状物質およびヨウ素は検出されませんでした。 床面に漏れた水は、同日中に、拭き取りによる清掃を実施いたしました。併せて、受け皿を設置するとともに、監視カメラによる漏えい状況の監視、ならびに空气中放射性物質濃度の監視を強化しながら、運転を継続しておりました。 (公表区分Ⅲ：平成22年11月17日お知らせ済み)</p> <p>その後、配管の保温材を取り外し、漏えい箇所を確認した結果、当該逆止弁のサイドプラグ部*3からの漏えいと特定いたしました。漏えいの原因は、サイドプラグのシール部の劣化によるものと推定いたしました。</p> <p><b>（安全性、外部への影響）</b> 本事象により漏れた水は、受け皿で適切に受けており、排気筒モニタの指示値は通常の範囲内であり、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>* 1 湿分分離加熱器 高圧タービンから低圧タービンに導く蒸気の湿分を下げ、かつ蒸気を再加熱することにより熱効率を上げる装置。</p> <p>* 2 放射エネルギーは約<math>1 \times 10^6</math>ベクレル 今回の水の滴下は、漏えいの拡大を防止するための堰内にとどまっており、法令による報告対象となる事象ではありません。なお、漏えいの拡大を防止するための堰を超える漏えい事象の場合、法令による報告対象として、放射エネルギーについては<math>3.7 \times 10^6</math>ベクレルが目安とされています。</p> <p>* 3 サイドプラグ部 逆止弁の稼働軸部の両端をボルトで留めている部分で、内部の水が漏れ出ないようにボルト部分と弁箱部をシールしている。</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<安全上の重要度> 安全上重要な機器等 / その他設備	<損傷の程度> <input type="checkbox"/> 法令報告要 <input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要 <input type="checkbox"/> 調査・検討中
対応状況	今後、漏えい箇所の補修作業を行うために、11月23日午後10時30分頃より、発電機出力を約70万キロワットまで降下させ、約2～3日間かけて作業を行う予定です。補修作業が終了したのち、発電機出力を定格熱出力まで復帰させてまいります。	



拡大図



保温材内部の逆止弁構造



漏えい箇所

柏崎刈羽原子力発電所7号機 系統概略図